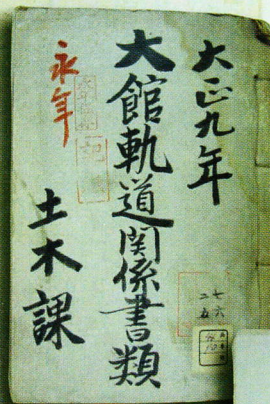


THE WORLD OF ARCHIVES

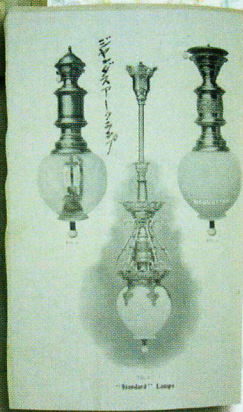
明治18年の由利郡全図
 (「各郡全図」930103-13488)



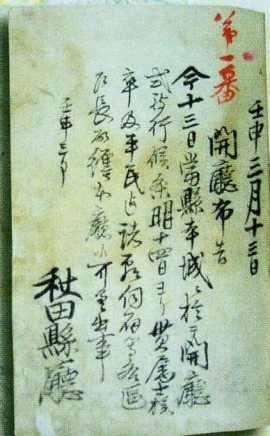
大正9年「大館軌道関係書類」
 (930103-06112)

明治18年の由利郡全図

千秋公園のアーケランプ
 (明治34年「公園事務簿」
 930103-08423)



企画展 アーカイブズの世界



秋田県庁開庁布告
 (明治5年「管内布達控」930103-11006)

【前期】平成17年 8月27日土 ▶ 9月19日月
 【後期】平成17年 10月25日火 ▶ 11月13日土
 午前10：00～午後5：00
 ところ 秋田県公文書館 2階特別展示室
 秋田市山王新町14-31 tel.018-866-8301 fax.018-866-8303

平成十七年度の企画展では、原点に立ち返り「アーカイブズの世界」と題して、公文書館の役割と活動、国内外の歴史、そして現在の諸課題などを広く展示紹介いたします。この企画展を通して、アーカイブズ、また秋田県公文書館の活動に対する理解が一層深まることを願ってやみません。

アーカイブズって何？

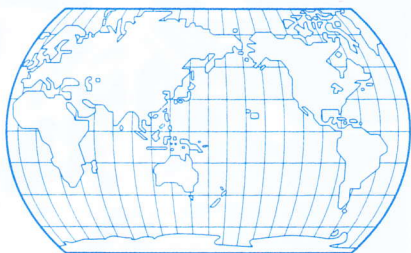
公文書館 (ARCHIVES) と図書館 (LIBRARY) と博物館 (MUSEUM) は近代国家では文化の三本柱と呼ばれています。図書館が複数部刊行された書籍、博物館が土器や鎧兜ほかモノ資料を扱うのに対し、公文書館は同一物が他に存在しない文書や絵図の原本を扱います。アーカイブズの語義には、①記録史料、②公文書館、③国家の公文書記録管理局などがあります。わずか十数年前の出来事でも記録が残されなければ、やがて記憶は不確かなものになります。アーカイブズは、人間の活動した証拠の記録を永久に保存し、将来の活動に役立てるため公開する「社会の記憶装置」の役割を担っています。

歴史の女神クリオ像 (アメリカ国立公文書館)
 WHAT IS THE PAST IS PROLOGUE
 — 過ぎ去りしものは未来の序章である —
 (原写真：東京都 高橋実氏撮影)



世界のアーカイブズ

アーカイブズの歴史は、紀元前3000年頃、メソポタミア文明における楔形文字の粘土板まで遡ります。古代共和制ローマで紀元前79年に建てられた記録保存庫タブラリウム(tabularium)は、現在もローマ市庁舎に遺っています。近代アーカイブズの原型は、18世紀末のフランス革命により成立しました。国家規模の記録保存制度が確立し、国家の記録保存責任が明示され、記録閲覧が市民の権利として保障されました。その後、19世紀から20世紀初めにかけて欧米を中心に、近代アーカイブズの制度と学問が発達しました。



第二次世界大戦後、ユネスコの諮問機関として国際文書館評議会(ICA : International Council on Archives)が設立されました。世界の国々の公文書館において人類の記録保存が進められることを支援しています。約180の国と地域が加盟しており、2005年に日本の国立公文書館長が第一副会長に選出されました。

日本のアーカイブズ

日本へのアーカイブズ知識は、明治時代の岩倉使節団による欧米巡回によって初めてもたらされました。明治4年(1871)11月に横浜港を出港した使節団は、条約改正交渉のほかに欧米各国の文物制度を視察し、その過程で資料保存の重要性について認識しました。使節団帰国後、明治政府は博物館と図書館は積極的に導入しますが、公文書館へは高い関心を示しませんでした。しかしその後、太平洋戦争による資料の被災消滅を経験したわが国では、記録保存の重要性が叫ばれ、資料保存運動や文書館設立運動、文書館法制定運動が展開されました。この運動が実を結び、昭和24年(1949)の「国立国会図書館憲政資料室蒐集係」の設置や昭和26年(1951)の文部省史料館の設立、都道府県レベルでは昭和34年(1959)、山口県文書館が設立されることになります。そして、昭和46年(1971)の国立公文書館の設立を経て、昭和62年(1987)には、公文書館法が制定されました。

今日では、全国の半数以上の都道府県がアーカイブズ機関をもつに至りました。

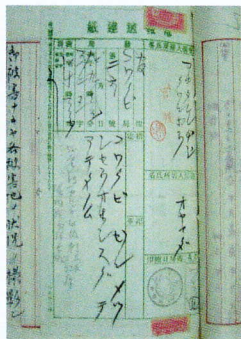
災害とアーカイブズ

人類の貴重な文化遺産が災害や戦争で永久に失われる例は、現代でも跡を絶ちません。1966年のフィレンツェ水害では、記録遺産の救出と保存修復が初めて組織的に行われました。1995年の阪神淡路大震災は、大規模災害後に記録を含む被災文化遺産の組織的な救出活動が実施された日本最初の例です。地元を中心に救出活動のため歴史資料ネットワークが組織されました。その経験は、2003年の宮城県北部地震や2004年の新潟県中越地震の際に生かされています。



阪神淡路大震災後の資料救出活動
(原写真・歴史資料ネットワーク所蔵)

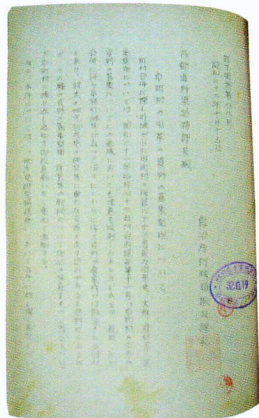
また、阪神淡路大震災は、避難所の日誌、チラシや壁新聞、体験記や絵画、写真やビデオなど多種多様な記録を膨大に生み出了。これら震災記録は貴重な経験と教訓を伝える資料として、阪神淡路大震災記念・人と防災未来センターで保存活用されています。秋田県公文書館にも、近代以降の震災や水害に関する県庁の記録が保存されています。



秋田県仙北部の強地震の電報
(大正十三年「震災事務簿」930103-083388)

市町村合併とアーカイブズ

全国的な市町村合併は、過去に2度行われました。明治22年(1889)の市制・町村制施行に備えた合併と昭和28年(1953)公布の町村合併促進法による合併でした。そして、平成12年(2000)の行政改革大綱により現在3度目の合併が進められています。合併前の旧市役所・町村役場の公文書等は、地域社会と住民の活動を記録した貴重な資料と言えます。これら公文書等を保存することは、地域独自の歴史と文化を守り後世に伝えることに繋がります。昭和32年(1957)、自治庁行政局は合併に際して「市町村の沿革の資料の蒐集整理について」を通達しました。が、昭和の合併では、旧町村役場の公文書等の散逸例が全国的に見られました。平成の市町村合併では、同じ轍を踏まないように、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会などを中心に公文書等保存の運動が高まっています。平成14年(2002)に総務省自治行政局が、「市町村合併時における公文書等の保存について」を各都道府県に要請しました。



「市町村の沿革の資料の蒐集整理について」
(昭和三十二年「町村合併事務簿」930106-00352)

秋田県の幕開け

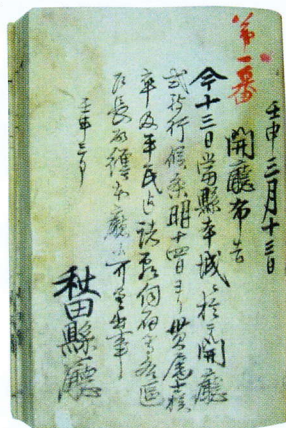
明治4年(1871)7月14日、明治政府は「廃藩置県」の詔を布告します。これにより、今日の秋田県管内にあった秋田、亀田、本荘、矢島、岩崎の各藩はそれぞれ県となり、仁賀保は山形県に編入されました(これより先、明治2年11月29日に鹿角郡は江刺県に編入されました)。その後、政府による廃置分合計画の下、新しい府県区画が発表され、同年11月2日にはこれらが併合されて現在の県域である秋田県が誕生しました。

明治4年(1871)12月27日には、侍従島義勇(佐賀出身)が初代権令に任命されました。翌年3月、久保田城本丸において秋田県庁の開庁式が執行され、秋田県政がその第一歩を踏み出しました。その後、県庁舎は明治5年(1872)10月、東根小屋町の

元学校への移転、明治6年(1873)8月の火災による下中城町元渋江邸での仮庁舎の設置、そして、同年11月27日長野町の元佐竹義尚邸(島権令の官舎)での7年の庁務を経て、明治13年(1880)4月、新庁舎が土手長町に建築されるに至りました。

昭和40年(1965)、県は、「廃藩置県」が行われ、「秋田県」という名称が初めて使われた旧暦の7月14日(新暦:8月29日)を「県の記念日」に定めました。

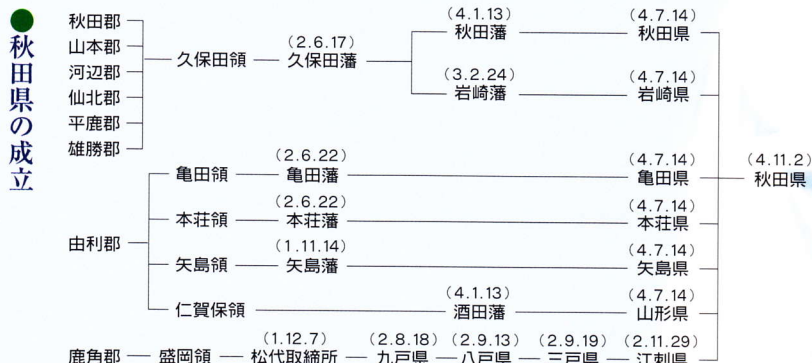
※明治5年(1872)11月9日~「太陽暦改暦」の布告



〔管内布達控〕



初代権令「島義勇」肖像写真
〔「歴代県知事写真」930103-13491〕



※法令全書(明治元年~明治4年)
田口勝一郎『秋田県の百年』(山川出版)
庶務課庶務掛事務簿(資料番号930103-08277) ※ () 内の数字は明治の年月日